

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400469		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム国分		
所在地	福岡県太宰府市幸都2丁目8-12 (電話)092-918-8288		
自己評価作成日	令和4年7月15日	評価結果確定日	令和4年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年に引き続きコロナ禍ではありましたが事業所理念である「優しく・笑顔で・家庭的な雰囲気・地域との交流の中で」を職員が共有し支援に努めています。楽しみながら入居者様と一緒にできる事を考え季節行事に加え日常生活の中でも職員が入居者様の声に寄り添い実現出来るように日々努めています。また、入居者様の出来る事・出来ない事・したい事・したくない事を全職員が情報共有し、入居者様一人ひとりに寄り添いながら、入居者様同士が日常生活の中で、協力・助け合いをしながら生活出来る様に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年8月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は4階建ての鉄筋コンクリート造りで、1階は居宅介護支援事業所があり、3階と4階がグループホームとなっている。敷地内に同法人の介護老人保健施設が併設している。職員は利用者にできるだけ笑顔になってもらいたいとの想いから、利用者一人ひとりに合ったケアの充実、意向や希望を叶えられるように、利用者本位の姿勢で取り組んでいる。職員は利用者と一緒に献立を考えて、手作りの昼食を提供している。季節の装飾が施された広いリビングで、利用者職員は会話したり、ゆっくりとした時間の中で笑顔で過ごしている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流の中で、その人らしい生活の支援」を事業所理念に掲げ、日々取り組みを行っている。スタッフ会議にて、情報共有を行い、介護職どうして意見交換を行いながら、実践に繋げている。	職員主体で支援を行うのではなく、利用者の意思を尊重し、好きなように過ごしてもらい、利用者主体でのケアを行っている。少しでも笑顔で過ごせるように意識して関わり、日々理念の実践を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の今、直接交流は実施出来ておらず。地域小学生や高校生との手紙のやり取りを行っている。	職員は地域の小学校へ訪問し、介護について勉強会を開催している。コロナ禍前は小学生の訪問があり、折り紙で一緒に遊ぶ等の交流の機会があった。現在は、その繋がりから、小学校や高校から年賀状や暑中見舞い、利用者が楽しめるような絵合わせの手書きの手紙が届いている。また、同法人の夏祭りのボランティアとの手紙のやり取りがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症オレンジカフェでの講演や、勉強会での講演を行っていたが、コロナ禍の為、実施できていない状況。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナ禍の為、書面配布での推進会議を行っていたが、今年に入り対面での推進会議を実施し、意見交換を行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者は重度化が進み参加はないが、利用者の家族や民生委員、市役所の介護保険課の職員の参加がある。利用者の状況や、入所間もない利用者の支援の事例、事故報告を行っている。参加者からは、地域の困りごとの相談や質問があり、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にはご出席いただき意見交換を行っている。当施設で制度的に不明な点などがあれば、随時連絡を取り、指示を頂いている。	日頃から行政へ運営に対する連絡や相談を電話で行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。コロナ禍の感染状況をみながら、身体拘束適に関する意見交換・意識調査アンケート開催している。	日中、玄関は施錠していない。玄関のドアには、職員手作りの鈴を設置している。職員は、利用者の外出傾向を把握しており、本人の好きな活動や好きなことに目を向ける等して、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、同法人の介護老人保健施設と合同で身体拘束委員会を設置しており、毎月会議を開催している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で政府の緊急事態宣言などに応じて、勉強会や委員会の開催も度々開催出来ていなかったこともあるが、その際は書面にて回覧を行っている。また、半年に1回全スタッフへ、虐待に関する意識調査アンケートを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も「日常生活自立支援事業」を活用しているご利用者がおり、社会福祉協議会と連携している。また、必要に応じた相談や情報交換の中で、学ぶ機会を持ち、いつでも支援できるよう体制は整えている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要時に利用者の家族に説明を行っている。制度についての研修は開催がない。	制度についての理解を深めるための研修の開催や、利用者や家族に対しての説明、パンフレットの設置、研修記録や報告書の整理等の取り組みに期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて説明を行いご家族からのご質問に対しては、「例え」を用いてご理解・ご納得頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会等行えていなかったが、面会開始されて、面会時に近況報告を兼ねて会話の場を設けている。また、1Fのエレベーター前に匿名で記入頂ける、意見箱を設置し、ご意見などを頂きやすい環境作りを行っている。	利用者からできたてのパンが食べたいとの希望が出た際には、実際に事業所で利用者と職員と一緒にパンを手作りする等、願いを運営に反映させて支援している。また、意見箱を設置し、家族が要望を職員に表せる機会があり、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、フロアリーダーによる、職員面談を定期的及び随時行っており、職員の意見や提案の反映に繋げている。	管理者は、月1回開催している全体会議の中で、職員に意見を聴いている。管理者は職員と共に仕事をする中で、感謝の気持ちを伝え、お互いが利用者の支援のために、何でも言い合える関係性を築くよう努めている。利用者のケアについて、職員から出た意見は協議し、実践に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に各職員の近況を確認し、改善を要すると判断した場合には、早急に改善に向けて調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。一人一人のキャリアや個性を活かし、自信をもって業務にあたってもらえるよう努めている。	採用選考では、年齢や性別を理由に対象から外すことはしていない。職員のライフスタイルに合わせて、休みの希望をシフトに反映させたり、働き方や異動の希望があった場合には、同法人内での異動を検討する等、安心して働ける職場環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議などを通して、スタッフがご入居者の権利について考える場を設けている。	一部の職員が人権に関する研修に参加し、伝達研修を行っている。職員が研修報告書を作成して、法人で取りまとめを行い、支援や次の研修に活かせるよう取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職時には、教育担当者を付け、互いにスキルアップできるよう努めているが、コロナ禍の為研修などへの参加は行えていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、他施設との交流の場を持つことは厳しい状況となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話を伺いながら、これまでの住環境や生活歴に基づいて、安心できる環境作りや感情を整えていけるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントの段階で、ご家族のご要望や心配と思われる内容を伺い、今後のサポートへ繋げている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍でご家族との面談などは、行えていなかったが、電話等を通して、ニーズを明確にし、ご本人ともお話をしながら、支援内容の提案に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般をご利用者とともにいき、これまでの人生経験で培ってこられたことを教えて頂きながら、生活できるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者に変化があった時、ご家族へ連絡情報を共有し、共に本人を支えていただけるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、以前のように外出行事が出来なかったが、これからは面会などを通じ関係の維持に努めていく。	職員は利用者の家族から馴染みの場所等を聞き取ったり、利用者との日々の会話の中で聞いた名前や場所を家族に質問して、利用者とのこれまでの関係性やつながりを確認し、支援を行う上でのヒントとなるよう意識して取り組んでいる。地域サロンでのDVD鑑賞を通して、地域住民との関係性を継続できるよう取り組んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて関わり合いを持ち、孤立せず支え合っているような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況はネットワークを通じて確認に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を基に、ご本人らしく暮らしていただけるように努めている。	職員は利用者の表情や言動から、利用者の意向の把握に努め、選択肢を設ける等、利用者の意向の表出を支援している。また、意思疎通が困難な利用者には、本人の行動を細かく観察し、利用者の視点に立った支援方法を検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまで利用された介護事業所等からの情報・経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に、アセスメント・モニタリング・評価を行い、ご利用者の現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これまでの生活歴や現状を基に、ケアカンファレンス・担当者会議を行い、ご本人やご家族の希望等も取り込んだケアプラン作成に努めている。	アセスメントを通して、職員や医療関係者の意見を取り入れて、担当職員が計画書を立案している。家族に電話や文書で説明し、意見を聞く等、具体的な計画を作成している。また、介護計画に沿った支援とその記録から、3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービスを記録、様子観察しいつもと違うご利用者の変化があれば個別記録に記載し、情報を共有している。また、記録が次のケアプラン作成に活かせるように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在のご利用者やご家族の状況を重視しサービス提案に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域交流の場が制限されており、作品作りや展示など、施設内で行える活動を積極的に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の変化に対し、主治医への連絡・受診を行い連携を取り、適切な医療を受けられるように努めている。	現在、感染症予防のため、往診を希望する利用者や家族が多い。訪問診療は2週間に1度で、往診記録を用い、家族にも情報提供を行っている。また、外来受診の際は家族が同行し、受診後は医療機関や家族からの情報を基に受診記録として残し、全職員が把握できるようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、併設老健の看護師長に相談できる体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常日頃、かかりつけ医との連絡は取り情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で、重度化に向けた方針は定めている。主治医の意見も併せて対応している。また、法人内の特養・老健との連携もある。	事業所の方針は入所時に家族に説明している。重度化の際には医療機関と連携して、事業所として可能な限りのケアと支援を行っている。過去に家族と一緒に看取った経験もあり、事業所が対応できる範囲で、利用者や家族の思いを最大限に尊重した取組を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアルを作成、職員全員で把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、出火想定場所を変えながら避難訓練を実施している。非常用備蓄は、1階倉庫に敷地内3施設共用で備蓄している。	事業所独自のマニュアルがあり、消防署の協力を得て、隣接する法人と合同の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行っており、民生委員を通して地域住民へ協力の声かけをしている。非常用備蓄として食料や飲料水、紙製食器の他、備品等も事業所建物内に準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な身体拘束適正化や虐待に関するアンケートで、日頃のケア内容を見直し、ご利用者の人権やプライバシーを尊重しながら対応している。また、接遇委員会を通じ、丁寧な対応を徹底している。	職員は利用者の人格を尊重し、特に言葉遣いには注意している。また、排泄時や入浴時は利用者のプライバシーに配慮し、職員間で連携している。接遇の研修で認識を深め、6ヶ月毎にチェックシートを用いて各職員が確認している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思を尊重し、自己決定や自立支援を行っている。意思疎通が困難なご利用者に対しては、事前に好まれるものを把握し表情等で読み取れるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内で過ごされる1日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせ寄り添い、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装ができるよう衣替えを行い支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな食べ物や何が食べたいかなどを、お聞きしながら献立を立てたり、ご利用者と一緒に食事をしている。食器拭きやテーブルを拭いて頂くなどのお手伝いをお願いし、一人一人にできる役割を活かしながら楽しんで頂けるよう支援している。	朝夕食は同法人の厨房で調理されるが、昼食は各ユニット内で調理されている。職員は利用者の希望や嗜好を取り入れ、味付けや彩りを考慮した献立を立てている。利用者は玉ねぎの皮剥きに加わったり、調理中の匂いの中に身を置くことで食事への楽しみが増している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通してバランスよく食べて頂けるよう食事を記入し、体重管理も行い栄養摂取に努めている。こまめに水分補給できるよう定期的に提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施。ご自身で行う事が困難な方には、適切なケアを行い清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄表を活用し状態に合わせて排泄支援を行っている。また、失禁の際は洗浄や清拭を行い清潔保持に努めている。	排泄コントロールが困難な利用者にはタイミングを計って誘導し、可能な限りトイレでの排泄を目指している。失敗した場合には、羞恥心に配慮した言葉かけを行いながら、迅速に対応している。パットやおむつは最小限となるように、職員全員で検討し、家族の了解をとっている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操を取入れ身体を動かし便秘予防に努めている。個々に合わせた食事形態や水分摂取を行っている。排便が困難な方には、主治医へ相談し下剤を処方して頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	お一人お一人の意思を尊重しながら体調にも考慮し楽しんで入浴して頂けるよう支援している。週に3～4回提供を行っている。	入浴は一日おきとしているが、希望すればいつでも入浴することが可能である。車椅子利用者も浴槽に入れるよう職員2名体制で支援している。入浴を望まない利用者には無理強いをせず、保清に向けて、本人の気持ちに沿う支援を行い、時間をかけて段階的に入浴できるよう努めている。家族にも状況を説明し、理解を得ている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、いつでも休息できるようにしている。時期に合わせて衣類の調整や空調管理を行っている。日中は活動への参加を促し安眠できるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を行う際に声に出し日付や錠数のダブルチェックを実施している。状態の変化に気を付けながら、必要に応じて主治医へ連絡している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴や力を活かした役割を持てるよう、支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出ができていない。	コロナ禍前は散歩や車で遠方への外出支援を行っていたが、現在は外来受診時のドライブや外気浴を行っている。また、利用者の希望でバーベキューやそうめん流しを行う等、楽しみや気分転換が図れるよう工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の機会を持つことが出来ず、買い物や支払いに関する援助は行えていない		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員一人ひとりが整理整頓を心がけ居心地の良い空間づくりに努めている。季節感を取り入れるように装飾品などを飾り工夫している。	共用の居間、食堂は眺望良好で広々として、清掃も行き届いており、清潔さが感じられる。ソファや家具などが配置され、布製の手作りカレンダーや折り紙等の装飾があり、利用者が安心してゆっくり過ごせるように配慮されている。また、居室ドアには名前や目印となる装飾を施し、トイレはドアに大きく表示する等、利用者に分かりやすく配慮している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファ席やベンチ席でゆったりと過ごして頂けるよう居場所づくりを心がけ工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、ご家族様とご入居者様でご持参頂いた品物を、お部屋に飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベッド、洗面台、クローゼットが備えられている。その他、利用者や家族がタンスや飾り棚等の家具やテレビ、仏壇、家族写真等が持ち込まれており、特に制限はされていない。また、利用者の好みでレイアウトされ、心地良く過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人で移動できるようトイレへの案内表示を提示している。お部屋の扉にはお名前を貼り分かるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍の今、地域との交流は、出来ていないが、その人らしい生活の支援を理念に掲げ、取り組んでいる。また、スタッフ間の会議にて、情報の共有を行い、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の今、直接交流は出来ていないが、地域の小学生や高校生との手紙での交流を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の今、出来ていないのが現状です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的（2ヶ月に1回）に開催している。近況をを報告し、ご出席頂いている外部の方々との意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席いただき、意見交換を行っている。また、不明な点等がある場合には、随時連絡を取りご協力や指示を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の今、身体拘束委員会や勉強会は、行えない状態だが、半年に1回のペースで、全スタッフを対象に身体拘束に関する意識調査アンケートを行い、ケア内容を見直す機会を作っている。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の今、身体拘束同様、委員会や勉強会は行えない状態ですが、半年に1回全スタッフに向け虐待に関する意識調査アンケートを行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も「日常生活自立支援事業」を活用されているご入居者がいらっしゃるの、社会福祉協議会と連携している。また、必要に応じて相談や情報交換の中で学ぶ機会を持ち、いつでも支援出来る体制は整っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて、説明を行い、ご質問に対しては「例え」を用いてご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の今、日頃より近況情報を電話にて行い、ご意見や要望を伺えるよう努めている。また、1階のエレベーター前に匿名でのご記入いただけるご意見箱を設置し、ご意見がいただきやすい環境を作り、ケアの質向上に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を定期的に行い、職員の意見や提案の反映に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に各職員の近況を聴き、改善を要すると判断した場合には、早急に改善に向けて、調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。個々のキャリアや個性を活かし、その能力を発揮して業務にあたってもらえるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ間の会議にて、ご入居者の権利について考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の今、研修等の参加は出来ていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の今、出来ていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の暮らし方や生活環境などプライバシーに配慮しつつ、ご本人・ご家族から入所時に情報収集に努めている。又、以前におられた介護事業所の相談員や担当者から情報を得ており、経過等の把握に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族の心配事等を聞き取り、ご家族へのサポートも含めたケアを行っている。また、日頃からご家族と連絡を取り、良好な関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を丁寧に聴き、必要としてある支援内容の見極めを行っている。また、当ホームのご利用に繋がらなくても、その方に必要な支援のアドバイスを行い、他事業所とも連携を図りながら支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般をご利用者と共に行い、今まで培ってこられたことを、教えて頂きながら、共感共生に基づいて生活が出来るよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し、良好な関係を築いた上で、サービス提供を行っている。状態の変化があった時にも、報告を密に行い、その方にあった支援内容を一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出や面会の制限は有るが、限られた中での関係の継続に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の状態・状況に応じ、日常生活を通じて利用者同士が関わり支え合えるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に、連絡や時には面会をし、その後の経過について相談や支援の関係維持に努めている。コロナ禍もあり現在、行事等に参加して頂けないが交流維持に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴などを基にご本人が望む生活は何か何ができるのかを考え、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方や生活環境などプライバシーに配慮しつつ、ご本人・ご家族から入所時に情報収集に努めている。又、以前におられた介護事業所の相談員や担当者から情報を得ており、経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメント・モニタリング・評価を行いながら情報の把握に・共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングで介護計画の見直しをし、利用者の現状・生活歴を基にケアカンファレンスや担当者会議を行い、ご本人・ご家族の思い・希望を反映してケアプラン作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービスの記録・記入を行い、気づいた事が有れば色分けし、次回のケアプランに活かせるような取り組みを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに添って、ご利用者の状態に合わせた柔軟な支援の取り組みを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域ボランティアの方との交流の場を持っていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関と連携し、月2回の訪問診療を行っている。ご利用者の急変があれば直ちに相談出来る関係を築いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが、併設の看護師（老健）に相談を行いアドバイスを受ける事はある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、ご利用者が安心して治療出来るように努めている。又、そうした場合に備えている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は、事業所で定めているが、主治医の意見も含めて対応している。また、法人内の各施設相談部会を開催しており、特養や老健との連携も強い。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成を行い、防災訓練時に緊急連絡網の確認を行っている。全職員定期的に研修を通じて、救急時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（年2回）行っている。非常階段を利用出来ないご利用者が多いので、まずは、ベランダへの避難誘導をしている。隣接の住宅との話し合いは行っていない。非常用備蓄は、1階倉庫に法人全体の備蓄品を保管している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊い個人の誇りやプライバシーを大切にされた対応を行っている。定期的に行われている接遇委員会の参加を通じて、全職員の共通認識として丁寧な対応を心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションで信頼関係を築き、ご本人の意思を確認しながら自己決定・自立支援を行っている。表出が難しいご利用者には、理解しやすい形での確認の仕方を工夫している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、日々の体調に考慮し、個人の意思に寄り添った対応をベースに行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出は出来ないがご家族の協力もあり季節に合わせた服装が出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の献立を一緒に考えたり、配膳・下膳・片付け等、ご利用者様が出来るお手伝いをお願いしている。役割を担いながら楽しんで頂ける様に支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取に記入を行い体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。自由に水分摂取出来るようにしているが、提供時間を設けこまめに水分補給出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等を実施し、口腔内の清潔保持に努めている。又、介助が必要な方にはその方に合わせたケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を使用し、その方の状態に応じた排泄支援・排便コントロールを行っている。失禁があった場合は清拭や洗浄等で清潔保持を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時に栄養を吸収しやすいようにその方に応じた食事形態での提供を行っている。又、日課として運動を取り入れ便秘予防に努めているがそれでも排便コントロールが上手くいかない場合は掛かり付けの病院に相談して下剤を処方してもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の意思を確認しながら週2～3回入浴を提供している。ご本人様のご気分やタイミングに合わせた提供やシャワー浴の提供、翌日に持ち越して入浴の支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息の時間を設けている。夜間は安心して気持ち良く眠れるように空調の管理や衣類の選択を行っている。日中はアクティビティ活動の参加を勧め昼夜逆転しないように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように声に出してダブルチェックを実施しながら服薬支援を行っている。又、ご利用者様の様子を日々観察し、変化に気を付け必要に応じて医師に相談を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好や生活歴を考慮し、支援を行っている。現在はコロナ禍で外出が出来ていないので施設内で楽しめるような余暇活動の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防の為外出支援は行っていない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防の為外出支援は行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備担当者を中心にリラックスして安心して過ごせるような空間作りに努め常に整理整頓を心掛けている。季節に応じた装飾や展示を行って季節感を取り入れる工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビング等思い思いの場所でくつろぎ生活して頂けるよう心地よい場所作りに取り組んでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様の思い出の品や使い慣れた物等をご持参頂き安心かつ安全に過ごせるよう工夫を行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷われないよう建物内に居室やトイレ・浴室への案内表示板を設置し見守りを行っている。食席も一人一人のADLや体格にあった場所で過ごせるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない